

福音書の臨床心理学的研究Ⅲ

—— ルカによる福音書におけるイエスの言葉のT A分析 ——

日 高 正 宏*

〔はじめに〕

前々報、「福音書の臨床心理学的研究Ⅰ」—マルコによる福音書におけるイエスの言葉のT A分析—と前報、「福音書の臨床心理学的研究Ⅱ」—マタイによる福音書におけるイエスの言葉のT A分析—において、イエスのことばの分析をするに当たり、人間関係を極めて単純化し、図式的に分類していく、エリック・バーン（Eric Berne）の創始による交流分析の方法を試みた。一応の成果を見たので、引き続き同じ手法の研究を進めたい¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾。

今回は、ルカによる福音書を取り上げたい。

分析方法としては、前々報、前報と同じように、イエスの全発言を句点毎に、ことばの表面T A分析、表面分析の中の裏面交流、表面分析の中の行為分析の3種類に分けて扱う。分類方法については文末の図を参照されたい。

〔ルカによる福音書におけるイエスのことばのT A分析〕

・ルカによる福音書 第1章

この章は、著者ルカのアナニヤへの献呈の言葉からはじまって、すぐにザカリアとエリサベツの話になっている。エリサベツは高齢であったが、身ごもって洗礼者ヨハネの誕生が予告される。

次にイエスの誕生が予告される。クリスマス生誕劇の物語である。マリア、エリサベツの出会い、マリアの賛歌、洗礼者ヨハネの誕生、ザカリアの預言と続くが、イエス生誕以前の物語であり、この章にはイエスのことばは無い。

・ルカによる福音書 第2章

ベツレヘムでイエスが誕生する。羊飼いと天使の場面、幼子イエスが神殿で献げられる、ナザレに帰る、と続き、41節で突然、12歳のイエスが登場する。神殿での少年イエスの場面で、両親が、イエスをエルサレムの神殿に連れて行った時、両親は少年イエスからはぐれてしまった。3日の後神殿にいる「息子」を見つけて、マリアがなぜ勝手な行動をしたのか叱った時、この書におけるイエスの第一発言となる。

「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」49節

両親にとってはショッキングな発言である。句点ふたつの2文で、T A分析をすれば、両方とも質問のAであるが、裏面に叱責のC Pがある。表面はA 2文、裏面はC P 2文とする。

・ルカによる福音書 第3章

この章は、〔洗礼者ヨハネ、教えを述べる〕〔イエス、洗礼を受ける〕〔イエスの系図〕となっており、イエスの発言は無い。

・ルカによる福音書 第4章

受洗後、荒野で40日間の断食をし、その後、悪魔の誘惑となる。「空腹なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」という悪魔に対し、

「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある。」4節

ここは冷静な引用であるから、表面はAであるが、裏面は悪魔への叱責のC Pとする。8節も12節も同じ構造となっている。

今後、引用部分については、前後の状況によって個々に判断する。

次に故郷ナザレでの話となる。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にし

* 本学キリスト教科教授(キリスト教人間学, 人間関係学)

たとき、実現した。」21節

ここは感情がないのでAである。

「きっと、あなたがたは、…(以下略)」23節

ここはA 1文である。

「はっきり言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。…(中略)…清くされなかった。」24～27節

ここは全て同じ構造で、表面は説明のA 5文、裏面に叱責のCP 5文とする。

汚れた霊に取りつかれた男に対し、

「黙れ。この人から出て行け」35節

ここは初めての癒しの場面であり、表面は命令のCP 2文であるが、いずれも裏面と行為では癒しのNP 2文とする。

「他の町にも神の国の福音を…(以下略)」43節
感情のないA, Aとする。

・ルカによる福音書 第5章

最初の弟子、シモンに対する言葉。

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」4節

見知らぬ漁師への大胆な命令であり、CPである。

「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」10節

「恐れることはない」はなぐさめのNPとする。次文は表面はAであるが、断固とした命令感があり、裏面CPとする。

2番目の癒しは皮膚病者への癒しである。

「よろしい。清くなれ」13節

ここはAと命令のCPであるが、裏面と行為はNP 2文とする。

「誰にも話してはいけない。…(以下略)」14節

ここは命令のCP 2文とする。

3番目の癒しは中風の人であった。

「人よ、あなたの罪は赦された」20節

ここは表面が癒しのNPであり、裏面はなく、行為もNPである。

この癒しを非難する律法学者たちに、

「何を心の中で考えているのか。…(以下略)」22～24節

ここは、表面は質問のA 2文と説明のAであるが、質問の裏面には叱責のCP 2文がある。

「わたしはあなたに言う。起き上がり、床をかついで家に帰りなさい」24節

ここはAと命令のCPであるが、命令の裏面と行為に

癒しのNPがある。

徴税人レビを弟子にする場面で

「わたしに従いなさい」27節

ここは表面は命令のCPであるが、裏面に救いのNPがあると考えられる。

「医者が必要とするのは、健康な人でなく病人である。…(以下略)」31・32節

ここは説明のA 2文であるが、裏面は救いのNP 2文とする。

「花婿と一緒にいるのに…(以下略)」34・35節

説明のA 3文であるが、はじめの1文には詰問した人々への叱責のCPが裏面にある。

「だれも、新しい服から布切れを破り取って…(以下略)」36～39節

ここは説明のAが7文とする。

・ルカによる福音書 第6章

安息日に麦の穂を摘んで食べた弟子たちが非難されたのに対し、

「ダビデが自分も供の者たちも空腹だったときに…(以下略)」3～5節

ここは表面では説明のA 3文であるが、裏面にはファリサイ派の人々への叱責があり、裏面のCP 3文とする。

第4の癒しも、安息日論争の場面である。

「立って、真ん中に出なさい」8節

表面は命令のCP、裏面と行為は癒しのNPとする。

「あなたたちに尋ねたい。…(以下略)」9節

ここは質問のA 3文であるが、3文とも裏面には叱責のCPがある。

「手を伸ばしなさい」10節

命令のCPであるが、当然、裏面と行為はNPである。

次に有名な山上の垂訓の場面となる。

「貧しい人々は、幸いである。…(以下略)」20～26節

前半は23節の「喜び踊りなさい。」は命令のCPであるが、それ以外はA 6文とするが、いずれも裏面に救いのNPがある。24節以下は「不幸である。」から、説明のA 5文であるが、全て裏面に叱責のCPがあると考えられる。

「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。…(以下略)」27節～36節

ここは長い区切りであるが、説明のA、命令のCPが7文、32節から34節までは表面A6文に全て裏面のCP、35節「敵を愛しなさい。」と「貸しなさい。」は命令のCP2文、その後説明のA2文、最後に「憐れみ深い者となきなさい。」は命令のCPとする。

「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。…(以下略)」37～38節

この部分は38節の「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。」まで、同じパターンで命令と説明が4回繰り返される。CP、A、CP、A、CP、A、CP、Aとなる。その後、A、Aとなる。

「盲人が盲人の道案内をすることができようか。…(以下略)」39～42節

この部分はA(裏面CP)、A、A、A(裏面CP)、A(裏面CP)、A(裏面CP)、命令のCP、説明のAとなる。

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また良い実を結ぶ悪い木はない。…(以下略)」43～45節

ここは全てAでA5文であるが最後のAには裏面にCPがついていると考えられる。

「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、…(以下略)」46節～49節

この部分は、A(裏面CP)、A、A、A、A、Aと考えられる。

・ルカによる福音書 第7章

第5の癒しは、百人隊長の僕を癒す場面である。

「言っておくが、…(以下略)」9節

説明のAで裏面と行為に癒しのNPがついている。

第6の癒しは、死んだ一人息子を生き返らせる場面である。

「もう泣かなくともよい」13節

表面がNPで裏面がなく、行為がNPとする。

「若者よ、あなたに言う。起きなさい」14節

呼び掛けはA、後半の表面が命令のCPで、裏面と行為にNPがついていると考えられる。

ヨハネの弟子たちに、

「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。…(以下略)」22・23節

ここは命令のCPに説明のAが2文である。

「あなたがたは何を見に荒れ野に行ったのか。…(以下略)」24～28節

ここは、はじめの9文は同じパターンで、質問のAに裏面の叱責CPがついている。後半の3文がAである。

「では、今の時代の人たちは何にたとえたら良いか。…(以下略)」31～35節

ここは全てAでA7文であるが、最後の2文は裏面にCPがついている。

罪深い女がイエスの足に香油を塗った場面で、

「シモン、あなたに言いたいことがある。」

「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。」

…(以下略)」40～47節

ここはA(裏面CP)、A5文、A(裏面CP)5文、最後の2文には裏面にNPがある。

「あなたの罪は赦された」48節

「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」50節

ここはAに裏面と行為のNP、続いてAに裏面と行為のNP、最後に慰めのNPと考えられる。

・ルカによる福音書 第8章

「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。…(以下略)」5～8節

ここはたとえ話で、A5文とする。この後にすぐ、「聞く耳のある者は聞きなさい。」8節と続く。

ここは当然、命令のCPである。

「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが…(以下略)」10～15節

ここは全てAでA8文とする。

「ともし火をともして、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。…(以下略)」16～18節

ここは、A3文、命令のCP、A(裏面CP)と考えられる。

面会に来た母と兄弟へ

「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行く人たちのことである」21節

ここは表面はA、裏面に叱責のCPがあると考えられる。

「湖の向こう岸へ渡ろう」22節

「あなたがたの信仰はどこにあるのか」25節

22節はCP、25節は質問のAに裏面のCPがついていると考えられる。

悪霊に取りつかれたゲラサの人に

「自分の家に帰りなさい。…(以下略)」39節

これは、命令のCPに裏面、行為のNP、命令のCPと考えられる。

群衆の中で、

「わたしに触れたのはだれか」45節

ここは質問のAである。

「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」48節

ここはA(裏面NP), CP(裏面NP)である。

「恐れることはない。…(以下略)」50節

ここは, CP(裏面NP), CP(裏面NP), A(裏面NP)と考えられる。

「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ。」

52節

ここはまだ癒していないので, CP, A, Aとする。続いて「娘よ、起きなさい」54節となるが、これは命令のCPに裏面と行為のNPとする。

・ルカによる福音書 第9章

12人の弟子たちを各地に派遣するにあたり、

「旅には何も持って行ってはならない。…(以下略)」3～5節

ここは全て指示のCP 5文である。

次は5千人に食べ物を与える場面で、

「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」13節

「人々を50人ぐらいずつ組にして座らせなさい」

14節

ここはどちらも命令のCPである。

「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」

18節

「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言う

のか。」20節

ここは、どちらもAとする。

「人の子は必ず…(以下略)」22節

冷静な予告のAである。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て…(以下略)」23～27節

ここは命令のCP, 説明のAが5文とする。

「何と信仰のない、…(以下略)」41節

ここはA(裏面CP), A(裏面CP), 命令のCPとする。

「この言葉をよく耳に…(以下略)」44節

命令のCP, 説明のAである。

「わたしの名のために…(以下略)」48節

ここは表面はA 3文であるが、いずれも裏面に叱責のCPがある。

「やめさせてはならない。…(以下略)」50節

ここは命令のCP, 解説のAである。

「狐には穴があり、…(以下略)」58節

ここはA, A, CPとする。

「わたしに従いなさい」59節

「死んでいる者たちに…(以下略)」60節

ここは命令ばかりのCP 3文である。

「鋤に手をかけてから…(以下略)」62節

説明のAであるが、裏面に叱責のCPがある。

・ルカによる福音書 第10章

72人を派遣するにあたり、

「収穫は多いが、働き手が少ない。…(以下略)」

2～12節

長い箇所であるがA, CP, CP, A, A, CP, CP, CP, A, A, CP, A, CP, CP, CP, 最後の3文はA(裏面CP)とする。

「コラジン、お前は不幸だ。…(以下略)」13節～

16節

この箇所はすべて同じ形で、表面はA, 裏面にCPが隠されている。A(裏面CP) 8文

「わたしは、サタンが…(以下略)」18～20節

ここは, A, A(裏面NP), A(裏面NP), CP, Aとする。

「天地の主である父よ、…(以下略)」21節～24節

ここではじめて従順のCCが出てくる。CC, A, CC, A, A, A, Aと考えられる。

良きサマリア人の箇所で、

「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」26節

質問のA 2文であるが、いずれも裏面にCPがある。

「正しい答えだ。…(以下略)」28節

ここはA, CP, Aである。

「ある人がエルサレムからエリコに…(以下略)」

30節～36節

たとえ話であるから、はじめはA 8文、次にA(裏面CP)となり、37節は、命令のCPである。

マルタとマリアの姉妹に

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。…(以下略)」41・42

節面はA, A, A, CPであるが、マリアを考えると最後の2文には裏面にやさしいNPがある。

・ルカによる福音書 第11章

主の祈りの箇所

「祈る時には、こう言いなさい。『父よ、御名が崇められますように。…(以下略)』」2～4節

はじめは指示のCPであるが、主の祈りの部分は全

て神への祈りであるから、従順のC Cが5文である。

「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、…(以下略)」5～13節

ここは長い箇所であるが、A 9文、命令のC P、説明のAが3連続、A、Aと説明、質問の中に叱責のA(裏面C P)が3文、A(NP)と考えられる。

「内輪で争えば、…(以下略)」17～23節

はじめの4文がA(裏面C P)、次にAが4文とする。

「汚れた霊は…(以下略)」24～26節

ここはA 4文とする。

「むしろ幸いなのは、…(以下略)」28節

これはAとする。

「今の時代はよこしまだ。…(以下略)」29～32節

ここは、始めの2文がA(裏面C P)、あとはA 7文と考えられる。

「ともし火をともして、…(以下略)」33～36節

ここはA、A、A、A、C P、Aと考える。

「実にあなたたち、…(以下略)」39～44節

ここは、A(裏面C P) 2文、C P、A 2文、A(裏面C P) 2、A、A(裏面C P) 2文、A 3文と考えられる。

「あなたたち律法の専門家も不幸だ。…(以下略)」46～52節

ここは、A(裏面C P) 2文、A 2文、A(裏面C P)、A 3文、A(裏面C P)、A 2文、A(裏面C P) 3文とする。

・ルカによる福音書 第12章

「ファリサイ派の人々のパン種に注意をなさい。…(以下略)」1～3節

ここは命令のC P、あとはA(裏面C P) 3文と考えられる。

「友人であるあなたがたに言うておく。…(以下略)」4～7節

ここはA、C P、A 6文、C P、A(NP)と考えられる。

「言うておくが、…(以下略)」8～12節

ここはA(NP)、A(裏面C P)、A、A(裏面C P)、C P、Aと分類する。

「だれがわたしを…(以下略)」14節

この節はA(裏面C P)と考える。

「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。…(以下略)」15～21節

ここはA(裏面C P)、C P、A、A、A、A、A、

A、A、A、A(裏面C P)と考えられる。

「だから言うておく。…(以下略)」22～35節

ここはA、C P、A、C P、A 4文、A(裏面C P)、C P、A 5文、C P 3文、A 2文、C P、A、A(裏面NP)、C P 2文、A 2文と考えられる。

「腰に帯を締め、…(以下略)」35～40節

ここはC P、C P、A、A、A、C P、A、C P、Aと考えられる。

「主人が召し使いたちの上に…(以下略)」42～48節

ここは全てAでA 7文とする。

「わたしが来たのは…(以下略)」49～53節

ここも全てAでA 9文である。

「あなたがたは、…(以下略)」54～56節

ここはA 4文にA(裏面C P)とする。

「あなたがたは何が正しいかを…(以下略)」57～59節

ここはA(裏面C P)、C P、A、Aとする。

・ルカによる福音書 第13章

「そのガリラヤ人たちが…(以下略)」2～5節

ここは、A、A、A(CP)、A、A、A(CP)である。

「ある人がぶどう園に…(以下略)」6～9節

ここはA、A、A、C P、A(裏面C P)、従順のC、A、A、Aと分類する。

「婦人よ、病気は治った」12節

ここは癒しであるからA(裏面、行為NP)とする。

「偽善者たちよ、…(以下略)」15・16節

ここはA(裏面C P)、A(裏面NP)、A(裏面C P)とする。

「神の国は何に似ているか。…(以下略)」18～20節

ここはA 7文とする。

「狭い戸口から入るように努めなさい。…(以下略)」24～30節

ここは命令のC PにA 7文が続く。

「行って、あの狐に、…(以下略)」32～35節

ここも同じパターンで命令のC P、A 6文と続く。

・ルカによる福音書 第14章

安息日の癒しの場面で、

「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか。」3節

「あなたたちの中に、…(以下略)」5節

この2文は、A(裏面CP)である。

「婚宴に招待されたら、上席についてはならない。
…(以下略)」8～14節

ここは命令のCP、A6文、CP、A、CP、A2文と考えられる。

「ある人が盛大な宴会を催そうとして…(以下略)」
16～24節

ここは、A9文、CP、A、CP、A(裏面CP)と考えられる。

「もし、だれかがわたしのもつに來るとしても…
(以下略)」26～33節

ここは、A(裏面CP)2文、A4文、A(裏面CP)となる。

「確かに塩は良いものだ。…(以下略)」34・35節
ここは、A、A、A、CPとする。

・ルカによる福音書 第15章

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、…(以下略)」4～7節
ここはA、A、A、である。

「あるいはドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、…(以下略)」8～10節
ここはA、A、A(裏面NP)と考えられる。

「ある人に息子が二人いた。…(以下略)」11～32節

ここは長い放蕩息子のたとえ話であるが、A9文、従順のCC3文、A3文、CC2文、A、CP2文、A(裏面NP)、A8文、CC(裏面CP)2文、CP、A(裏面CP)、A5文、最後にA(裏面NP)と考えられる。

・ルカによる福音書 第16章

「ある金持ちに一人の管理人がいた。…(以下略)」
1～13節

ここは、A4文、CP2文、A9文、CP、A3文、CP、A10文、最後にA(裏面CP)と考える。

「あなたたちは人に自分の正さを見せびらかすが…(以下略)」15～31節

ここも長い区切りであるが、A(裏面CP)2文、A13文、従順のCC3文、A2文、A(裏面CP)2文、A2文、CC2文、A、CC、A6文、最後にA(裏面CP)と分類する。

・ルカによる福音書 第17章

「つまずきは避けられない。だが、それをもたら

す者は不幸だ。…(以下略)」1～4節

ここはA3文、CP3文、CP(裏面NP)と考えられる。

「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、…(以下略)」5～10節

始めは1文でCP、裏面に批判のCPがある。次がA、CP2文、A3文、CC、CPと考えられる。

「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」
14節

ここは表面は命令のCPだが、裏面と行為は癒しのNPである。

「清くされたのは十人ではなかったか。…(以下略)」17～18節

ここは、表面は質問のA3文であるが、他の9人への批判が裏面にあり、裏面CP3文とする。

「立ち上がって、行きなさい。(以下略)」19節

ここは命令のCPで裏面にNP、Aで裏面にCPと考えられる。

「神の国は、見える形では来ない。…(以下略)」
20～37節

ここは、A5文、CP2文、A7文、CP3文、A3文、最後にA(裏面CP)と考えられる。

・ルカによる福音書 第17章

「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。…(以下略)」2～8節

ここは、A6文、CP、A2文、A(裏面CP)と考えられる。

「二人の人が祈るために神殿に上った。…(以下略)」10～14節

ここはA3文、CC、A2文、CC、A2文と考えられる。

「子供たちをわたしのところへ来させなさい。…(以下略)」16・17節

ここは指示のCPの裏面にいたわりのNPが2文ありA(裏面NP)、A(裏面CP)2文と続く。

「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。…(以下略)」19～20、22節

ここはなぜで始まっているが、なぜ?は批判が含まれていることが多い。A(裏面CP)3文、そこで区切って、A(裏面CP)、CP、A、CPとなる。

「財産のある者が…(以下略)」24・25節

「人間にはできない…(以下略)」27節

「はっきり言うておく…(以下略)」29・30節

これらはすべてAとする。A5文。

「今、わたしたちはエルサレムへ…(以下略)」31～33節

ここは今後の予告なので、A 5 文とする。

「何をしてほしいのか。」41節

「見えるようになれ。…(以下略)」42節

表面は質問のA, しかし裏面にNP, 次にCP(裏面と行為NP), A(裏面と行為NP)とする。

・ルカによる福音書 第19章

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」5節

表面は命令のCP, 説明のAであるが、ザアカイは嫌われる徴税人であるから、裏面と行為はNPである。

「今日、救いがこの家に…(以下略)」9・10節

表面はA 3 文であるが、それぞれ裏面はNPとする。

「ある立派な家柄の人が、…(以下略)」12～27節

ここは長い箇所であるが、A 4 文, CC, A, CP 2 文, A, CC, CP, A, CC 2 文, CP 2 文, A, A(裏面CP) 2 文, A, CP, A 2 文, そして最後が命令のCPと考えられる。

「向こうの村へ行きなさい。…(以下略)」30・31節

ここは、指示のCP, A, CP, CPである。

「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」40節

イエスのことばでは、「言っておく」とか「はっきり言っておく」という時には批判的なことが多い。ここも表面はAであるが、裏面に批判のCPがある。

「もしこの日に、…(以下略)」42～44節

ここはA(裏面NP), A(裏面CP), A, A(裏面CP)と考える。

「こう書いてある。…(以下略)」46節

ここはA(裏面CP), CP, A(裏面CP)と考えられる。

・ルカによる福音書 第20章

「では、わたしも一つ尋ねるから、それに答えなさい。ヨハネの洗礼は、天からのものだったのか、それとも、人からのものだったか。」3・4節

ここは、祭司長や律法学者の詰問への反論であるから、はじめはCP, 次の文は、どう答えてもイエスの仕掛けた罠にはまる問いであるから、この書はじめての創意と工夫のLPと考えられる。

「それなら、…(中略)…言うまい。」8節

これは前のLPに引き続くもので、表面はAであるが律法学者が罠にはまったのだから裏面LPである。

「ある人がぶどう園を作り…(中略)…ほかの人たちに与えるに違いない。」9～16節

ここはたとえ話であり、Aが14文連続し、その後に教訓のついたA(CP) 2 文が続く。

「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か…(以下略)」17・18節

この言葉の後に、「律法学者たちや祭司長たちは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと気づいたので、」とあるから、はじめは質問のA(裏面CP), 引用のA, A(裏面CP)とする。

「デナリオン銀貨を見せなさい。…(以下略)」24節

ここも有名な論争であるが、罠のある問いであるからCP(裏面LP), A(裏面LP)とする。

「それならば、皇帝のものは…(以下略)」25節

ここも表面Aに裏面のLPがついている。

「この世の子らは…(以下略)」34～38節

ここはA 4 文にA(裏面LP) 2 文とする。

「どうして人々は『メシアはダビデの子だ』と言うのか。…(以下略)」41～44節

ここも質問の影に批判があり、A(裏面CP), A 4 文, A(裏面CP), とする。

「律法学者に気をつけなさい。…(以下略)」46・47節

ここはCP, A(裏面CP) 3 文とする。

・ルカによる福音書 第21章

「確かに言っておくが…(以下略)」3・4節

ことばの表面は解説のA 2 文であるが、この女性へのやさしさがあり、裏面NPとする。

「あなたがたはこれら…(以下略)」6節

ここは警告だから。A(裏面CP)とする。

「惑わされないように…(以下略)」8～19節

ここはCP 3 文, A 6 文, CP, A 4 文, A(裏面NP), 最後に指示のCPが来ると考えられる。

「エルサレムが軍隊に囲まれる…(以下略)」20～24節

ここはCP 4 文にA 5 文がついている。

「それから、太陽と…(以下略)」25～28節

ここはA 5 文, CP, Aと考えられる。

「いちじくの木や…(以下略)」29～33節

ここはCP, A, CP, A 3 文とする。

「放縦や深酒…(以下略)」34～36節
こはC P, A, A, C Pと考えられる。

・ルカによる福音書 第21章

「行って過越の食事…(以下略)」8節

「都に入ると、水がめを…(以下略)」10～12節

こはC P, A, C P, A, C Pとする。

「苦しみを受ける前に、…(以下略)」15～22節

こは聖餐式の場面で、A 2文、「これを取り、互いに回して飲みなさい。」は命令のC Pであるが、裏面と行為に救いのN Pがある。その後、A, A(裏面・行為N P), C P, A(裏面・行為N P), A(裏面C P), A, A(裏面C P), となる。

「異邦人の間では…(以下略)」25～30節

こはA, C P 2文, A 4文, A(裏面N P) 2文と考えられる。

「シモン、シモン、サタンは…(以下略)」31・32節

こはA, A(裏面N P), C P, とする。

「ペトロ、言うておきが…(以下略)」34節

有名な警告であり、A(裏面C P)とする。

「財布も袋も…(以下略)」35節

「しかし今は、財布の…(以下略)」36～37節

「それでよい」38節

こはA, C P 3文, A 2文, 「それでよい」は権威的であるからC Pとする。

「誘惑に陥らないように祈りなさい」40節

「父よ、御心ならば…(以下略)」42節

40節は指示のC P, 42節は神への祈りであるから従順のC C 2文と考えられる。

「なぜ眠っているのか。…(以下略)」46節

こはA(裏面C P), C Pとする。

「ユダ、あなたは接吻で…(以下略)」48節

「やめなさい。もうそれでよい」51節

「まるで強盗にでも…(以下略)」52～53節

こはA(裏面C P), C P 2文, A(裏面C P) 3文と考えられる。

いよいよ捕まって裁判を受ける場面となる。

「わたしが言っても、…(以下略)」67～69節

「わたしがそうだと…(以下略)」70節

こはA(裏面C P) 2文, A, 70節はA(裏面L P)と考えられる。

・ルカによる福音書 第23章

「それはあなたが言っていることです」3節

これははぐらかしでA(裏面L P)である。

「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。

むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。…

(中略)…『生の木』さえこうされるなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」28～31節

「泣くな」とう指示C P 2文であるが、裏面はやさしいN Pがある。その後、予言のA 3文とする。

「父よ彼らをお許してください…(以下略)」34節

神への願いであるから従順のC Cに裏面のN P, A(裏面N P)と考えられる。

「はっきり言うておきが、…(以下略)」43節

こは表面は予言のAであるが、裏面にN Pがある。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」46節

これはイエス最後のことばで従順のC Cとする。

・ルカによる福音書 第24章

ここからは当然、復活後のことばとなる。

「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか。」17節

「どんなことですか」19節

どちらも弟子たちへの質問のAである。

「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことをすべて信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」25・26節

こはA(裏面C P), とする。

「あなたがたに平和があるように」36節

「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか、わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ、触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えたとおり、わたしにはそれがある。」38・39節

36節は祝福のN Pで、A(裏面C P) 2文, C P(裏面・行為N P), A, C P(裏面・行為N P), Aと考えられる。

「ここに何か食べ物があるか」41節

これは質問のAとする。

「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。…(以下略)」44節

「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受けて、三日目に死者の中から復活する。…(中略)…わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまって

いなさい。」46～49節

これがこの書のイエスの最後のことばである。

41節は質問のA, 次がA 2文, 46節以下は, A 4文にA(裏面NP), 最後に指示のCPとなる。

〔T A分析の結果〕

前々報告ではマルコによる福音書を扱い, 前報告ではマタイによる福音書を扱った。そこで一応, イエスのことばの分析にT Aが応用できることを明らかにした。今回はルカによる福音書を扱っている。そこで, 3福音書の比較検討を含めて考察する。

〔ルカによる福音書だけから分かること〕

1. 説明文の多いところと, イエスのことばが多いところに極端な差がある。イエスのことばのある章で最少発言2文(2章), 最多発言92文(12章)
2. 章によってAが多かったり, CPが多かったりする。これは発言の相手による。
3. CP→A, すなわち命令→説明, または説明→命令のA, CPの形が多い。
4. イエス自身の感情は殆ど表現されていない。NC発言, RC発言は全く無い。
5. LPは少ないが効果的に使われている。
6. Aが77.36%と非常に多い。

〔マルコによる福音書, マタイによる福音書との比較から分かること〕

1. マタイとT A表面分類上の構成が似ている。
2. 3書の中で, ルカが裏面交流が最も多い。ルカでは全文の27.36%になる。
3. ルカは裏面のCP率が一番高い。18.24%
4. 2と3からルカでの発言が素直でない, 皮肉やもって回った言い方が多くことを示している。

そのことの意味はこれだけでは分からない。

5. ルカは表面のNP率が一番低い。0.54%

6. ルカは表面も裏面もNC, RCが全く無い。

このことは, ルカが最も理性的に書かれていることを意味するのだろうか。

〔今後の課題〕

1. 残るヨハネによる福音書のT A分析をし, 4福音書の比較検討をすること。
2. 新約聖書の他の登場人物の発言との比較検討をすること。
3. 旧約聖書の登場人物の発言との比較検討をすること。⁶⁾
などが考えられる。

文 献

・聖書 新共同訳 日本聖書協会

- 1) 日高正宏 1995 福音書の臨床心理学的研究I —マルコによる福音書におけるイエスのことばのT A分析— 平安女学院短期大学 紀要26 1-11
- 2) 日高正宏 1996 福音書の臨床心理学的研究I —マタイによる福音書におけるイエスのことばのT A分析— 平安女学院短期大学 紀要27 1-11
- 3) 池見西次郎他 1977 セルフコントロールの心理と生理(上) 西日本新聞社 31-43
- 4) Harris, Thomas A. 1967 I'm OK — You' OK Pan Books 62-93
- 5) 日高正宏 1979 各種心理療法における『気づき』(Awareness)と認知転換 京都市教育委員会カウンセリングセンター研究紀要9 66
- 6) 日高正宏 1996 モーセの発言のT A分析—出エジプト記より— 平安女学院短期大学教育研究所年報第3号 35-52

表1 [全体の集計]

上段 マルコによる福音書 (全444文)
 中段 マタイによる福音書 (全969文)
 下段 ルカによる福音書 (全932文)

イエスのことばの表面T A分析						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
113	12	315	1		2	1
203	18	729	1	1	17	
175	5	721			31	

上記表面分析の中の裏面交流						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
36	36			4		11
79	41			3		1
170	75			10		

上記表面分析の中の行為分析						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
	20					
	4					
	25					

表2 各福音書の全発言の中でのパーセンテージ

上段 マルコによる福音書 (全444文)
 中段 マタイによる福音書 (全969文)
 下段 ルカによる福音書 (全932文)

イエスのことばの表面T A分析						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
25.45	2.70	70.95	0.23		0.45	0.23
20.95	1.86	75.23	0.10	0.10	1.75	
18.78	0.54	77.36			3.33	

上記表面分析の中の裏面交流						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
8.11	8.11			0.90		2.48
8.13	4.23			0.31		0.10
18.24	8.05			1.07		

上記表面分析の中の行為分析						
CP	NP	A	NC	LP	CC	RC
	4.50					
	0.41					
	2.68					

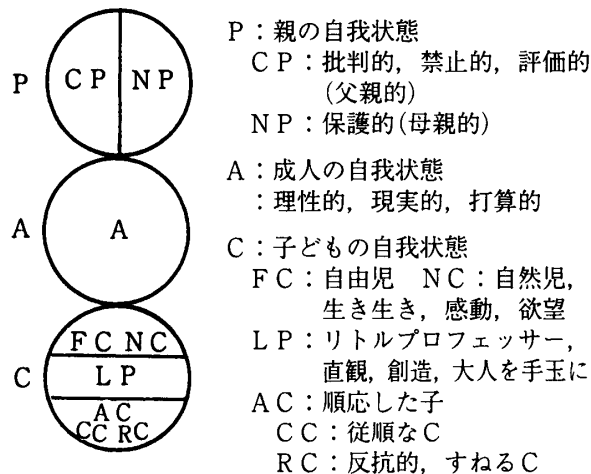


Fig. 交流分析で考える自我状態⁵⁾